



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 益田デューロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「鎮魂」

三月十四日付けの『ラブ新報』に「鎮魂・いつかは希望に」というタイトルで、東日本大震災の二年目にあたる三月三十一日の追悼式の記事が載った。この日、東京国立劇場での遺族代表・西城卓哉さんの挨拶が深く心に響いてきた。

「一日一日を生きたことがこんなにも大変なことだったのかと、過ぎ行く時間の重さを感じ続けた2年でした」。三十二歳の西城さんは、花に囲まれた標柱に何度も顔を向け、語りかけるように追悼の言葉を述べた。「自分は何のために生きていくのだろうか。一つだけ確かなことは、あなたがいた私の人生は幸せだったということですよ」。壊滅的な津波被害を受けた宮城県名取市闡上(ゆりあげ)地区で妻の由里子さん(当時二十七歳)と長男の直人ちゃん(同7ヶ月)を失った。自分も被災者でありながら、震災後は市職員として避難所の運営に忙殺された。遺体との対面は、直人ちゃんとは震災の4日後、由里子さんとは一ヶ月以上たった後だった。『被災されたみなさん、苦しいけど、負けないで。職員S』。由里子さんがまだ行方不明だった時、市役所に張り出した自筆のメッセージは、自らを奮い立たせようとするものでもあった。早起きして弁当や離乳食を作ってくれたこと。そんな由里子さんを喜ばせたくて、休日に早起きして掃除をしたこと。「笑顔と『ありがとう』の言葉が絶えることはありませんでした」。声を絞り出すように3人での生活を振り返り、少しだけ、ほほえんだ。西城さんの上司の職員には「これからの自分の生き方を亡くなった妻と息子へ見せていきたい」と語っていたという。この職員は「つらいだろうと思うが、情熱をもって明るく仕事をしている。仕事を打ち込むことで、あのと時語った言葉を日々、実行していると思う」と彼の思いを代弁する。西城さんはこう結んだ。「残されたこれからの年月をかけて、愛する2人の人生の続きを私が歩んでゆこうと思います。深く心に刻まれた多くの尊い命を、私は決して忘れません」

「ダビデは何度も「わがたましいよ、主をほめよ」(詩篇百三・1)と言う。この魂というのは神を讃えるためにあるものだから、「誉めよ、誉めよ」と叫ぶのである。西城さんのまわりにも彼と同じような悲惨な目に遭った人たちがひしめき合っているが、当の召された人たちはどうなのかと言うと、すでに神のみ手の中にある。神を信じて、信じていなくても神のご判断の中にある。そこで彼らの願うのは、地上にいる者たちが魂の父なる神を慕って生きることなのだ。そうすることが召された者への鎮魂であり、最善の供養ではあるまいか。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

